

ヨーロッパの博物館

3. オランダ・ベルギー・スイス・イタリアー

糸魚川 淳二*

Museums in Europe

3. Netherlands, Belgium, Swiss and Italy

(Abstract)

Thirty-eight museums in Netherlands, Belgium, Swiss, Italy and Denmark were visited by the writer in 1974 and 1977. They listed in Table 1 and Fig. 1. Character of the museums in each country is discussed.

Synthesized with the previous papers (ITOIGAWA 1976, 1977), characteristic in European museums is summarized.

1. ま え が き

前報(糸魚川, 1976, 1977)において, イギリス・フランスの博物館について述べたが, その他のヨーロッパの国々の博物館を紹介する。ただし, 訪問した国々が限られていて, しかも数は十分でなく, 一端をかいま見たに過ぎない。とくにドイツをはじめ, 多くの国々の博物館についてはふれることができない。しかし, それぞれの国は, それぞれ特色のある博物館を持っているので, 日本における博物館のあり方, 運営などの参考になると考えられる。

見学した博物館38館は第1表, 第1図にまとめた。自然史関係を中心に, 主要な博物館について記述し, さらに, 各国の博物館の特色についてのべ, イギリス・フランスも含めて, ヨーロッパの博物館の類型化を試みた。

本稿をまとめるにあたり, 海外滞在の機会を与えられた文部省, 名古屋大学, 多くの便宜をはかられた名古屋大学理学部, とくに地球科学教室の各位に感謝の意を表する。また, Leiden の Rijksmuseum van Geologie en Mineralogie の Dr. A.W. Jansen, Mr. M. van den Bosch にはお世話になった。厚くお礼申しあげる。

2. 各国の博物館

a. オランダ

オランダでは Leiden にあるいくつかの博物館を見学したのみである。しかし, この市は「博物館のまち」と呼ばれ, 9つの博物館がある。4つの国立博物館と2つの市立博物館を見学したが, いずれもすぐれた内容を持ち, 充実したものであった。地質・鉱物博物館(Rijksmuseum van Geologie en Mineralogie)を中心にのべる。

* 名古屋大学理学部地球科学教室・瑞浪市化石博物館嘱託 Department of Earth Sciences, Nagoya University, Nagoya

1978年10月26日 受理

地質・鉱物博物館は創立以来 100 年をこし、広場に面した古い建物の中にある。鉱物・隕石・宝石・岩石などの展示は 2 階、オランダの地質・地球の歴史・生命の歴史が 3 階である。展示替えが進行中 (1977 年) で、新旧入りまじっていて、全体としての統一に欠けた状態であった。新しい展示も必ずしも新形式でなく、むしろ、オーソドックスな形式であった。コレクションは多く、よく整理されている (例として軟体動物・軟骨魚類化石)。シーボルト採集の *Carcharodon megalodon* の標本があり、「テングのツメ」のラベルがつけてあった。多くのスタッフがいて、各分野の研究を行い、内容のある研究報告「Scripta Geologica」を出版しているのは、国立の専門博物館としては当然のことである。オランダの地質学・鉱物学研究の一中心といえるだろう。特別展は W.C.H. Staring 教授 (1808—1877) の死後 100 年記念展であったが、や

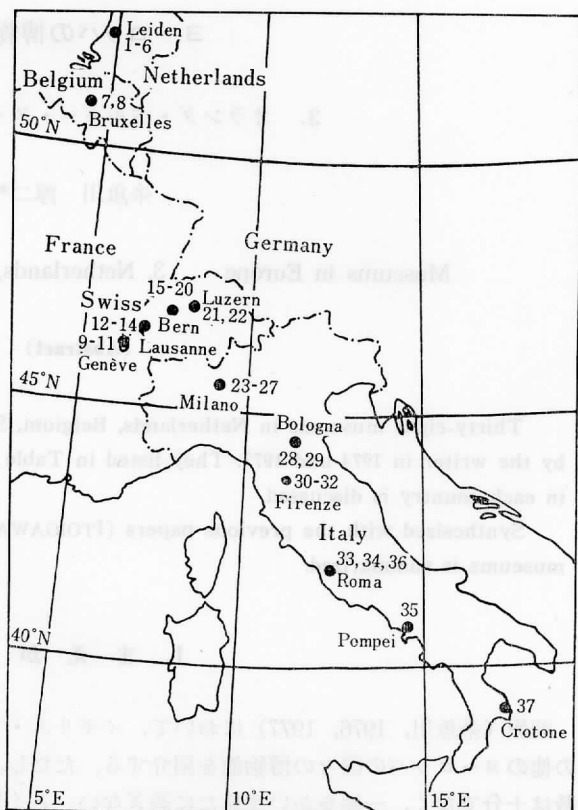
やせまい別室で、オランダ初期の地質・化石の研究の状況を標本・資料・手稿などを材料として展示したものであった。この博物館のパムフレット・パネル・ラベルなどすべてがオランダ語の表示である。

他の博物館もすぐれた内容をもっている。Rijksmuseum Voor Volkenkunde (国立民族学博物館) は全世界にわたる膨大なコレクションをもち、特に、かつての植民地インドネシアを中心に東洋のコレクション・展示が充実している。Rijksmuseum Van Oudheden (国立古代博物館) は 2 階—4 階にわたる大展示で、ゆったりしており、「考古学のパノラマ」, 「オランダの考古学」などすぐれた、わかりやすい展示である。エジプトからローマまで、よいコレクション・展示である。

2 つの市立博物館の 1 つは 1743 年につくられた風車をそのまま保存展示としたもので、現在も動いている。オランダのシンボルとしての風車は排水・精粉・製材などに使われ、現在でも 1,000 基近い数が残っている。これもその 1 つである。'De Lakenhal' と呼ぶ市立博物館は古い建物に美術・工芸の展示をしたもので、17—19 世紀の調度品を配列した、部屋毎の展示が行われている。

国立、市立であるせいか、いずれも内容が豊かで、管理もきっちりしていると思われた。いずれも単科の、専門博物館であることにも特徴があるといえる。

b. ベルギー



第 1 図 博物館位置図 Fig. 1. Location of museums

Musée de l'Institut Royal des sciences naturelles de Belgique (ベルギー王立自然史博物館) についてのべる。大コレクションを誇り、研究も盛んな大博物館である。イグアノドン10頭が並ぶ展示は世界的に有名で、圧巻である。その他化石では多くの恐竜、マンモス、くじら、さめ (*Carcharodon megalodon*, 全長15 m, 口の大きさ3 m, 1つの歯の高さ15 cm) など、大きいものが目立つ。動物の展示は剥製が中心で、大きい動物から小鳥まで、あらゆる種類が集められている。展示は古い型式で、学校の標本室であるかのような印象を受けるのはフランスの自然史博物館と同様である。

Bruxelles の街で気がついたものに、博物館への順路を示す標識 (Pl.29, Fig.3) がある。他ではあまり見かけなかった親切な配慮であると思われた。

c. スイス

自然美に恵まれたスイスは、同時に、それを利用しての観光立国の国である。その為にいろいろな方策がとられているが、博物館の性格、活動も無関係とはいえない。たとえば、多くのスイス的な博物館は、この国の特色を十分に生かしたもので、また魅力にあふれていて、人をひきつけている。

お国柄を現わす博物館の1つに Genève にある Musée de l'horlogerie (時計博物館) がある。美術・歴史博物館の分館で、小ぢんまりしたものであるが、中の時計のコレクションはすばらしい。1904年に開館したものだが、それ以前に、長い間の時計学校のコレクションがあるから、いい収集となったのである。木のモザイクの床をもち、ふん囲気もよい。

Bern にある郵便博物館と山岳博物館は1つの建物の上下を占めている。前者は郵便のすべてを扱ったもので、スイスにおける郵便の発達 (服装・馬車・ポストの変遷など)、電信・電話のしくみから切手のコレクションまで多彩である。

山岳博物館はアルプスに関するもので、次のような展示項目をもっている。

スイス山岳博物館成立のいきさつ、スイスアルプスクラブ (この博物館設立のきっかけとなったクラブ)、氷河と気候、地質と鉱物、スイスアルプスの発見と研究、山案内の方法、山岳装備、山岳救助、アルプスの動物と植物、1800年代末までのスイスアルプスの古地図作製、スイスの古典的地図作製、スイスのレリーフ地図作製、地形レリーフ、パノラマ、アルプスの民俗

アルプスの地質では地質図をバックに、化石や岩石、調査用具などが展示され、とくに時代物の用具が面白い。その他、地図作製についてのこと、大きいアルプスのジオラマなどが目についた。

この2つの博物館は規模は大きくないが、この国を代表するアルプス・郵便がテーマで、展示のしかたもきちんとし、スイス的であるといえる。Luzern にある交通博物館は逆に大きい規模をもっているが、やはりスイスを代表する博物館といえよう。ヨーロッパ第一をキャッチフレーズにして、海・陸・空から宇宙にまで及ぶ交通・通信のすべてを扱い、展示のスタイルは新しく独自で、ヨーロッパでは珍しい例である。注目された展示は汽車・飛行機など、数多くの実物展示である。興味のあったものは、アルプス山中の列車の運行 (ミニ汽車・電車が動く)、ベルトコンベア式の写真 (スイスの風景) の展示、動きのある通信の展示などである。特に、通信は、大胆なパネル構成と動きによって、世界の人と人を結ぶ通信の意義をダイナミックに表現したもので、この館でもっとも印象的なものであった。逆に電話、船の展示は地味で目立たない。本来地味なものであること、動きの少ないことなどによると思われる。

第1表 ヨーロッパ各国の博物館

凡例 国：国立 national, 市：city, 州：cantonal, 王：王立 royal, 専：専門（単科）divisional, ethnology, 俗：民俗 folk, 史：歴史・考古 history and pre-history, 産：産業 industry, 音：音

名 前 name	所在地 Location
オランダ Netherlands	
1. Rijksmuseum van Geologie en Mineralogie	Leiden, Hooglandse Kerkgracht 17
2. Musenm 'Boerhaave'	Leiden, Steenstraat 1a
3. Rijksmusenm Voor Volkenkunde	Leiden, Steenstraat 1
4. Molenmuseum 'De Valk'	Leiden, 2 ^e Binnenvestgracht 1
5. Stedelijk Museum 'De Lakenhal'	Leiden, Oude Singel 28-32
6. Rijksmuseum Van Oudheden	Leiden, Rapenburg 28
ベルギー Belgium	
7. Musée de l'Institut Royal des sciences naturelles de Belgique	Bruxelles, rue Vautier 31
8. Musée communal	Bruxelles, Grand place, Maison du roi
スイス Suiss	
9. Musée d'histoire naturelle	Genève, route de Malagnou
10. Musée de l'horlogerie	Genève, route de Malagnou
11. Musée d'art et d'histoire	Genève, rue Charles-Galland
12. Musées Cantonaux d'histoire naturelle	Lausanne, Palais de Rumine, place de la Riponne
13. Musée Cantonal d'archéologie et d'histoire	Lausanne, Palais de Rumine, place de la Riponne
14. Musée historique de l'ancien évêché	Lausanne, Cathedral のむかい
15. Naturhistorisches Museum	Bern, Bernastrasse
16. Bernisches historisches Museum	Bern, Helvetia Platz
17. Schweizerisches Postmuseum	Bern, Helvetia Platz
18. Schweizerisches Alpines Museum	Bern, Helvetia Platz
19. Schweizerisches Gutenberg Museum	Bern, Kornhaus Platz
20. Schweizerisches Museum für Buchbinderei	Bern, Kornhaus Platz
21. Verkehrshaus	Luzern, Lido Strasse
22. Gletschergarten	Luzern, Gletschergarten
イタリア Italy	
23. Museo Civico di Storia Naturale di Milano	Milano, Corso Venezia
24. Museo Teatrale alla Scala	Milano, Piazza della Scala
25. Museo Poldi Pezzoli	Milano, Via Manzoni
26. Museo della Basilica di S. Ambrogio	Milano, Piazza S. Ambrogio
27. Civico Museo Archeologico	Milano, Corso Magenta
28. Museo Civico d'Archeologico	Bologna, Via dell' Archiginnasio

Table 1. Museums in Europe

大: 大学 university, 美: 美術 art, 自: 自然史 natural history, 科: 科学 science, 族: 民族
 楽 music, 宗: 宗教 religion

特 徴	分 類	備考 (w: 週日, s: 日曜, h: 祭日)
100年の歴史をもつ; オランダの地質・ 鉱物研究の1中心	国・専・自	土・日・祭日休館; 10—12, 14—17; 無料
科学, 数学, 工学, 医学の歴史	国・専・科	10—17(w), 13—17(s); 1 Df(ギルダー)
東洋関係のよいコレクションをもつ; 「仏像の部屋」は有名	国・専・族	10—17(w), 13—17(s); 1 Df
風車の内部を見せる博物館	市・専・俗	4月—9月15日, 月曜休館; 10—17(w), 13— 17(s, h); 1 Df
絵画・彫刻・工芸; 古い建物	市・専・美	10—17(w), 13—17(s, h); 1.5 Df(3月— 11月), 0.75 Df(11月—2月)
考古・歴史のよいコレクション	市・専・史	10—17(w), 13—17(s, h); 1 Df
自然史の大博物館; 恐竜が10頭並んでいる	王・専・自	日曜, 無料
ゴシック調の「王の家」にある; 絵画, 工芸など; 別館にレースを展示	市・専・美	日・祭日, 土曜午後休館; 10—12, 13—17 (w); 10 B F
充実した自然史博物館; 地域に重点をお いている	専・自	月曜休館; 10—12, 2—5; 無料
時計のコレクション; 美術館の分館	専・産	月曜午前休館; 10—12, 2—6; 無料
考古・歴史・美術; 古い建物	専・美・史	“ ; “ ; 無料
動物・地質にわかれる; 大学の建物中に ある	州・専・自	10—12, 14—17; 無料
歴史・考古の新しい形式の展示	州・専・史	10—12, 14—17; 無料
昔の司教館を使って内部を見せる	専・史	月曜休館; 10—12, 14—17; 無料
ジュネーブのと似た自然史総合館	専・自	月曜午前休館; 9—12, 14—17; 1 S F
家具・陶器・衣類などの大コレクション	専・史	“ ; “ ; 無料
郵便に関するすべて	専・産	“ ; “ ; 無料
アルプスについての資料	専・俗	“ ; “ ; 1 S F
印刷についてのいろいろ; がらんとしてい る	専・産	無料
製本に関するもの; 上記と同居	専・産	“
交通・通信についての大博物館; 見ごた えがある	専・産	月曜休館; 9—18(3月—11月), 12—17(12月— 2月); 5 S F
氷河遺跡(野外展示)とその資料を展示	専・自	8—18(4月—10月), 9—17(3月, 11月); 3.5 S F
第一級の自然史博物館	専・自	月曜休館; 9.30—12.30, 14—16.30(3月—11 月は17.30まで); 無料
オペラ座付属; 音楽資料	専・音	日曜休館; 9—12, 14—18
古い建物に工芸品・美術品を展示	専・美	月曜休館; 9.30—12.30, 14.30—17.30; 300 L
キリスト教博物館; 目立たない	専・宗	火曜, 日曜午前休館; 10—12, 14.30—17; 無料
エジプト・ローマなどの考古品	専・史	火曜休館; 9.30—12.30, 14.30—17.30; 無料
先史時代からローマまで大コレクション	市・専・史	月曜休館; 無料

名 前	name	所在地	Location
29.	Museo Nazionale storicto della Tappzzeria	Bologna,	Via Barderi
30.	Museo Archeologico	Firenze,	Via della Colonna
31.	Museo Nazionale o del Bargello	Firenze,	Via degli Alfani
32.	Museo Bandini	Firenze	郊外, Fiesole
33.	Museo Luigi Pigorini	Roma	郊外, EUR, Viale Lincoln
34.	Museo della civiltá Romana	Roma	郊外, EUR, Piazza G. Agnelli
35.	Museo Pompei	Pompei	
36.	Museo Pio-Cristiano	Citta del Vaticano	
37.	Museo Archeologico Nazionale	Crotone,	Via Risorgimento
デンマーク Denmark			
38.	Mineralogisk museum	Copenhagen,	øster Volagade 5-7

この博物館は PR に熱心で、スイス各地で、パンフレット、ポスターなどを見かけた。また、入口でもらうリーフレットは英・独・仏に始まり、日・アラビア・エスペラントに及ぶ18ヶ国で説明があり、ここにもその姿勢がうかがわれる。

自然史の分野では Genève と Bern の自然史博物館が規模・構成ともよく似ている。Genève のそれは、次のような構成をもつ。

1階 地域の動植物 ジオラマによる高山から湖水地域までの生態展示と 系統分類展示；自然保護

2階 鳥と哺乳類 剥製・骨格標本による分類展示；ジオラマによる生態展示（熱帯，サバンナ，熱帯降雨林，温帯，極地方など）

3階 無脊椎動物・下等脊椎動物（爬虫類，魚類など）の分類展示・生態展示（2階と同形式）

4階 化石の系統分類展示，岩石，隕石，地史，鉱物，地域の地質と鉱物

地域の動植物（自然保護を含めて），動物のジオラマによる生態展示，地域の地質と鉱物などが注目された。

Bern のものも非常によく似た構成で，1. 地域の動植物（1階），2. 動物（2・3階），3. 地質・鉱物・古生物（4階）である。動物の部分では2・3階吹抜けにした部分に，アフリカの大動物を配したジオラマがあり，スケールが大きい。地域の動植物では，100をこす大小のジオラマがずらりと並び，鳥，小動物を中心にした生態展示をする。

この2つで見る限り，スイスの自然史博物館は地域の材料が中心であること，植物が少ないこと，形式がきまっていて，多少パターン化していること，などが特徴としてあげられる。

自然史の分野で，Luzern にある Gletschergarten はユニークな野外博物館である。1872年に発掘されたロイス氷河の遺跡を整備し，公開しているもので，博物館が付設されている。削られた第三紀中新世の砂岩からなる，かつての氷床は平らであるが擦痕が発達し，大きい円礫がころがっている。モレーン（氷堆石）であり，これによってつくられた 甌穴がいくつもある。大きいものは直径8m，深さが10m近くもある。

博物館の建物は3階建で，地史に始まり，自然（アルプスの動植物），鉄道，民俗，工芸，

特 徴	分 類	備考 (w : 週日, s : 日曜, h : 祭日)
世界各地の織物を集めた小さい博物館 古い建物にコレクションがみちあふれている	専・美 専・史	300 L 月曜休館 ; 150 L
彫刻・工芸・武器など ; 小建物 美術・工芸・彫刻の小さい博物館	国・専・美 専・美	火曜休館 ; 9.30—16(w), 9—13(s) ; 150 L 100 L
大きい立派な建物 大きい建物に彫刻・工芸品のコピーを展示	専・史 専・美	月曜休館 ; 9—13 ; 100 L 〃 ; 9—13.30 ; 〃
有名な遺跡博物館 バチカン市国の博物館の一つ ; 大理石のレリーフ, モザイクなど	専・史 専・美	150 L 日曜・祭日休館 ; 9—14
国のはずれにある小さい国立博物館	国・専・美	無料
コペンハーゲン大学鉱物・地質教室付属 ; 鉱物・隕石など	大・専・自	無料

地質, 古地図と展示され, 整理されていない. 内容的にもそれ程ではない. やはり, この博物館の中心は野外展示である. 手を加えないでも, 自然のよさ, 面白さがあり, 人をひきつけるといえよう. この博物館のパフレットも各国語で印刷され, 英・ドイツ・フランス, イタリア・スペイン・日本の2種があった.

スイスの博物館をまとめると, 次の点が特徴としてあげられる.

1. 国の特性を表わすものを材料としている
2. 「地域」の材料を大切にしている
3. 観光を考慮していて, PR も盛んである
4. 清潔できっちりしている
5. パターン化して面白さに欠ける点がある

d. イタリア

Museo Civico di Storia Naturale di Milano (ミラノ自然史博物館) は 1838 年創立のイタリアの代表的自然史博物館である. 第二次世界大戦の戦火をうけたが, 再興された. 白と赤褐色の大理石でつくられた大きな建物である. 展示の構成は次の通りである.

- 1, 2. 鉱物 古い型式の展示
3. 岩石と化石 同上, 哺乳類・恐竜など
4. 古生物への入門 新しい型式の展示, 古生物学のねらいと用途, 系統図
5. 古生物 新しい型式, 三畳紀の古景観のジオラマ, 分類別の化石展示
6. 恐竜トリセラトプスの復元模型
7. 恐竜アロサウルスの骨格模型
- 8, 9. 無脊椎動物 昆虫・貝類・ウニなどの旧式の展示

以上 1 階

10. 魚・両生類・イタリアの哺乳類
11. イタリアの国立公園 3つのジオラマ
12. 哺乳類 世界各地の動物剥製

- 13. ジオラマ 16の鳥のジオラマ
- 14, 15. 哺乳類 剥製・骨格標本
- 16, 17, 18. 鳥1,600種 2,700標本の展示
- 19. 爬虫類 各種の爬虫類, 生態のジオラマ

以上2階

全体として, 新旧の展示が入りまじっているが, うまく調和されていて異和感はない. 4の系統図はうまくまとめられているし, 5のジオラマもよくできている. 16—18の鳥の剥製標本には圧倒される.

この博物館はヨーロッパの自然史博物館の一流の一つといわれるだけあって, 研究も盛んで, 多くの蔵書を持ち, 3種の出版物を出している. 解説書・絵はがきなど, 普及面も充実している.

イタリアは古い歴史をもった国で, 古い建物の中に, すばらしいコレクションを持ったものが多い. 特に考古・歴史の博物館に多い. たとえば, Bologna の Museo Civico d' Archeologico (市立考古博物館), Firenze の Museo Archeologico (考古博物館) はその典型である. Museo Pompei (ポンペイ博物館) は, いまさら説明を要しない, 有名な遺跡である. 西暦79年の Vesuvius の爆発により埋没した Pompei の街が発掘され, 保存されている. 見事でユニークな野外博物館である.

Vatican 市国は市全体が美術館・博物館である. 有名な数々の美術品はいまさらふれるまでもないが, 図書館の壁と床を飾る大理石のモザイク, さりげなく置かれた机や壺などの工芸品, すべてが展示品である. その中にまわりと少しちがってユニークな, ピオ・クリスチャン博物館がある. 大理石の胸像, レリーフ, 建物の彫刻, 石棺などが主な展示品で, それらが黒い鉄のアームを使ってうまく配置されていて, 古いものと新しいものが何の異和感もなく対比させられていて見事である.

イタリアでもう一つ印象的であったのは, Roma 郊外 Eur のいくつかの博物館である. いずれも壮大で, 大理石を使った考古・民族のルイジ・ピゴリーニ博物館, 古代ローマを模してつくられたローマ文明博物館などである. 後者の展示物は彫刻・かざりものの石膏コピーで, ローマ中の古い, いいものをすべてうつした感がある. 桁はずれの発想である.

イタリアの博物館は古い建物に, 古い時代のすぐれた“もの”をおさめた点に第1の特徴がある. その反面, 自由奔放で, すばらしい発想と桁はずれの規模をもつことがある. デザインなどの面の, すぐれた感覚も見のがすことができない.

3. ヨーロッパの博物館のまとめ

3回にわたって, ヨーロッパ各国の博物館の性格・活動などについてふれた. それらをまとめると次のようになる.

a. 全体について

- i. 各国によって性格が異なるが, 基本的には, よい“もの”を保存し, 公開するという点である.
- ii. 古い建物が“いれもの”として利用されることが多い.
- iii. 概して単科(専門)博物館が多い. 総合博物館は例外的にイギリスに多く, 国立の地方博物館から市町村の小さい博物館まで及ぶ.
- iv. 地域に重点がおれている.

- v. それぞれのお国柄を反映して多様であるが、基本的には一致し、博物館の原点を見ることができるとができる。
- b. 展示に関して
 - i. オートドックスで、どちらかといえばクラシックなものが多い。
 - ii. 学校の標本室的なところがある。
 - iii. 新しい形式の展示の試みがいくつか見られた。またその方向に対する指向が見られた。
- c. 普及・教育に関して
 - i. 多彩な行事が行われている。
 - ii. 博物館の PR は盛んで、市のガイド・ブック、観光案内に必ず説明がある。
 - iii. 学校教育との関連では、スクール・サービス、博物館での授業が行われている。
- d. 収集に関して
 - i. 時間をかけて収集したものが多い。
 - ii. 標本のセンターとして利用されている。
 - iii. 個人コレクションの寄贈・購入の例が多い。
 - iv. 植民地時代の収奪による収集もある。
- e. 研究に関して
 - i. 主として、大～中の博物館、たとえば国立、州立、大都市の市立博物館において行われている。
 - ii. 研究センターとしての役割りを果している。
 - iii. 地域のテーマについて研究している。
 - iv. 社会活動たとえば自然保護と関連した研究も行われている。
 - v. 博物館相互、博物館と大学とコンタクトをとっての研究もある。

参 考 文 献

- 糸魚川淳二 (1976), ヨーロッパの博物館 1. イギリス. 瑞浪市化石博物館研究報告, no. 3, 213—225.
—— (1977), ヨーロッパの博物館 2. フランス. 同上, no. 4, 157—167.
—— (1979), 博物館だより. 220 p., 共立出版.
- 小島郁生 (編) (1979), ヨーロッパ自然史博物館, 世界の博物館 9, 180 p., 講談社.
- 棚橋源太郎 (1947), 世界の博物館. 216 p., 講談社.

Plate 28

Fig. 3. Leiden の Rijksmuseum van Geologie en Mineralogie (国立地質・鉱物博物館) の建物 (右手) とその前の広場

n) の外観: 市街地、人口増加の傾向あり。

展示 (Leiden)



1 2

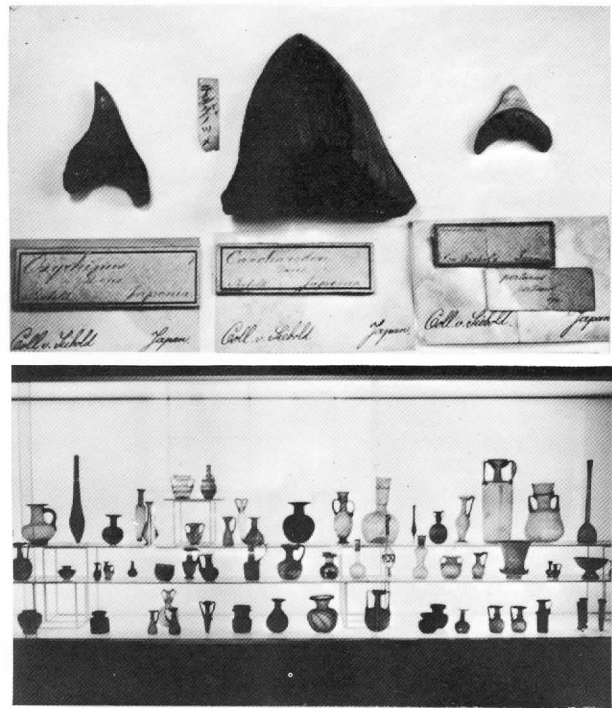


3



4

5

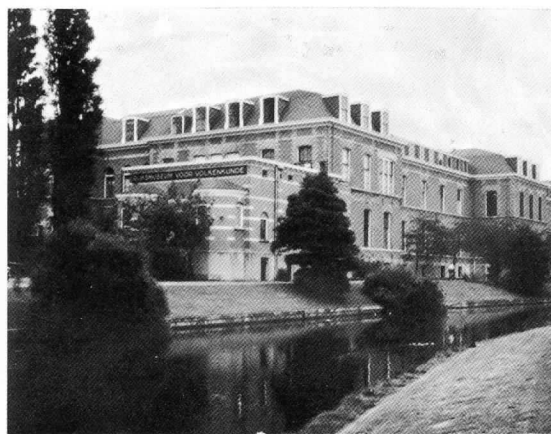


6



7

- Fig. 1. Rijksmuseum Voor Volkenkunde, Leiden (国立民族学博物館)の外観
Fig. 2. Leiden のRijksmuseum Van Oudheden の外観
Fig. 3. Bruxelles の街角の博物館案内板
Fig. 4. Bruxelles のMusée de l'Institut Royal des sciences naturelles de Belgique
(ベルギー王立自然史博物館)の外観
Fig. 5. Bruxelles のMusée communal (市立博物館) の外観
Fig. 6. Genève の Musée d'histoire naturelle (自然史博物館)の四階古生物のホール



1



2



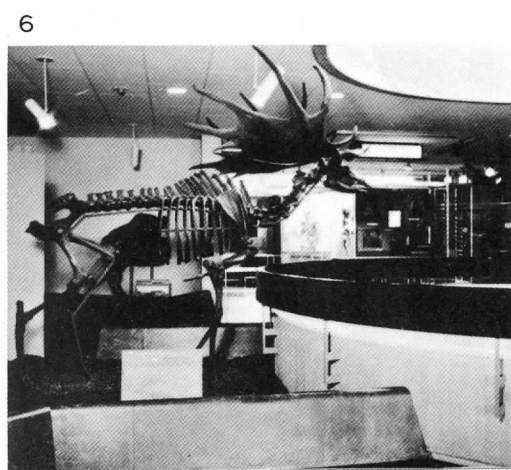
3



4



5



6

Fig.1. Bern の Schweizerisches Alpines Museum (山岳博物館) の地質の展示

Fig.2. Bern の Naturhistorisches Museum (自然史博物館) の野鳥の展示

Fig.3. Bernisches Historisches Museum (ベルン歴史博物館) の外観

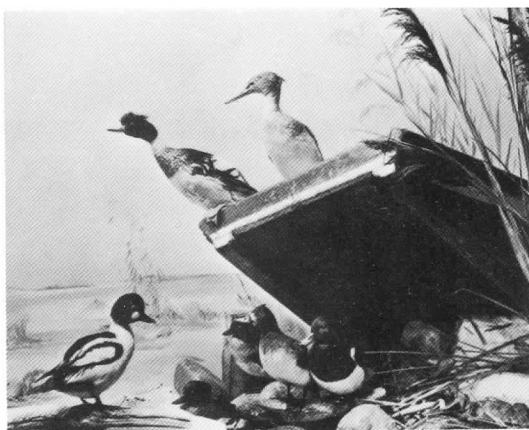
Fig.4. Luzern の Verkehrshaus (交通博物館) の外観

Fig.5. Verkehrshaus の入場券の半券

Fig.6. Verkehrshaus の通信の展示



1



2



3



4



5



6

Fig. 1. Luzern の Gletschergarten (氷河公園博物館) の野外展示 (氷蝕床と堆石)

Fig. 2. Genève の Musée de l'horlogerie (時計博物館) の内部

Fig. 3. Lausnne の Musées Cantonaux d'histoire naturelle (州立自然史博物館) の展示

Fig. 4. Museo Civico di Storia Naturale di Milano (ミラノ自然史博物館) の外観

Fig. 5. 同上の *Triceratops* の復元模型

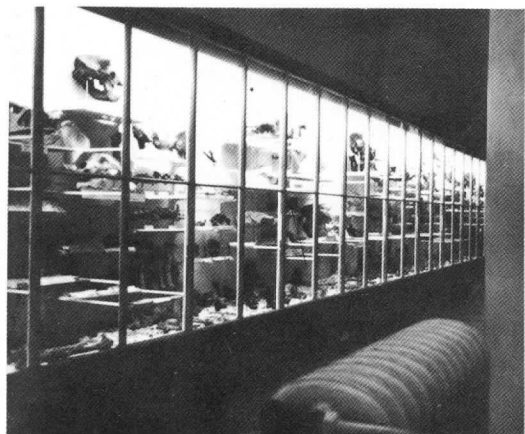
Fig. 6. Bologna の Museo Civico d'Archeologico の入口で見かけた子供たち



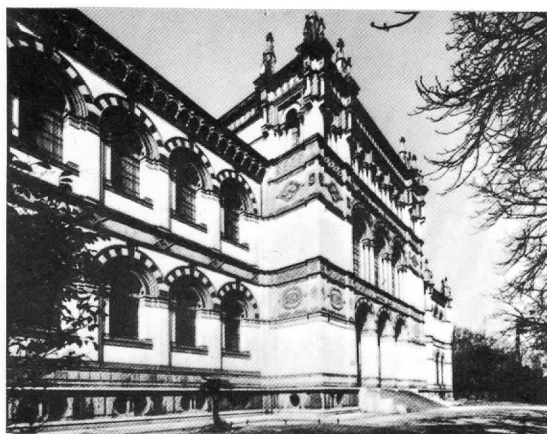
1



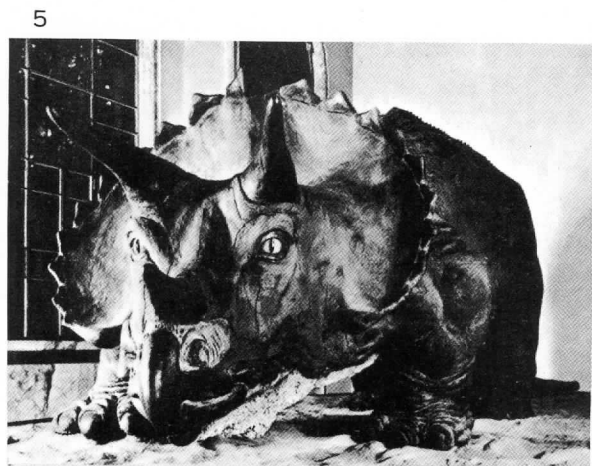
2



3



4



5



6

Fig. 1. イタリアの国立博物館の入場券

Fig. 2. Museo della civiltà Romana (ローマ文明博物館) 内部

Fig. 3. Museo Pompei ポンペイ博物館遺跡内部

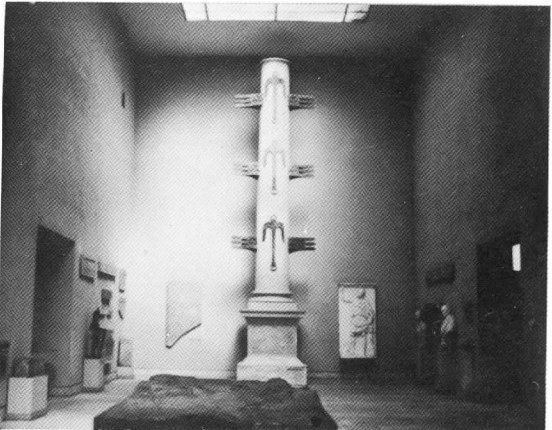
Fig. 4. Museo della civiltà Romana 外観(ローマ郊外Eur)

Fig. 5. Museo Pio-Cristiano Citta del Vaticano (ピオ・クリスチャン博物館・バチカン)
内部

Fig. 6. 同上. モザイクの展示



1



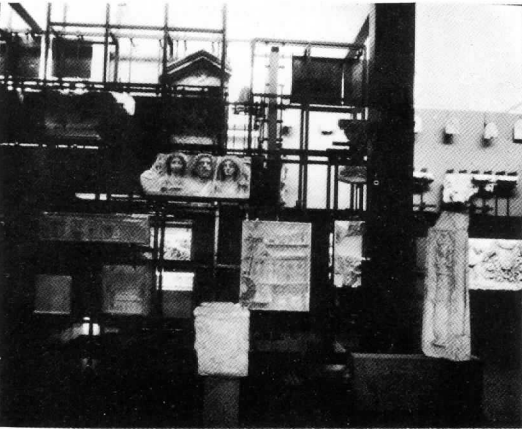
2



3



4



5



6